

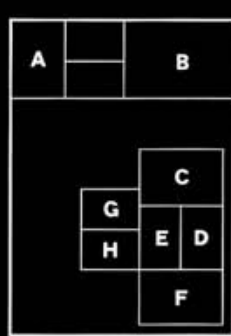


2005.8.14~16 COOL BEAT IN KYOTO

京都で音が途切れなかった3日間 過ぎ去った夏に残された最高の思い出

京都の夏を盛り上げる音楽イベントとして立ち上がったCOOL BEAT IN KYOTO。8月14日、「新風館」でのフリーライブで幕を開け、15日には、「磔磔」[Live Spot RAG]「KYOTO MUSE」の京都を代表するライブハウス3カ所にて完全招待制のライブを敢行。そして五山の送り火の16日には、「祇園甲部歌舞練場」にて一青窈のライブが開催された。京都がいっそう暑くなった真夏の3日間、今回はその中で最も熱いステージを見せてくれたKYOTO MUSEのライブをレポート。

A. ピンクリボン軍のハイテンションなステージで始まったKYOTO MUSE。次にMagenta Beach、一青窈のハナミズキの作曲者でもあるマシコタツロウと続き、最後の大トリは貫禄たっぷりのライブを見せてくれた10-FEET。**B.** 14日の新風館には、岡本真夜・矢野真紀・Fried Fried・つきよみが登場。15日の磔磔には馬場俊英・おおはた雄一・ケイタクが、Live Spot RAGでは高鈴・竹仲絵里・SHUUBIがそれぞれステージに立った。各会場にぴったりとはまったブックイングだった。**C.D.**「この夏最高の思い出を作って帰ろうぜ！」とオットコマエなMCを見せてくれた10-FEETのTAKUMA。「RIVER」などのキラーチューン連発でこの日一番の盛り上がりを見せた。現在、10-FEET「4REST」TOUR '05~家族、仲間、酒、音楽への真っ只中の彼ら、10月2日には「なんばHatch」でワンマンライブを敢行する。**E.F.**彼らの事を知らなくても、客を乗せてしまうステージングが圧巻のピンクリボン軍。**G.H.**打ち込み+生バンドというスタイルが織りなすグルーブ感を見せつけてくれたMagenta Beach。ジャンルにとらわれないミクスチャーサウンドで、KYOTO MUSEを彼らの世界へ変えていた。



Q. STATION
FM KYOTO 89.4